

育ちよみ「鏡野のようちんこ」コース



「差別や偏見のない社会」

本校では、人権教育の一環としてハンセン病についての学習を深めています。今年度は、邑久光明園に生徒たちが出向いて、入居者の皆さんと交流することになりました。事前に、ハンセン病について校内で学習し、ハンセン病の歴史を知るとともに、なぜ人々の中に差別や偏見が生まれたのかを調べました。また、そのため患者の皆さんが、どんなにつらい思いをしたかということを知りました。

いよいよ交流学習当日、行きのバスの中では、

「あっ、海が見える。」

「浮いている筏は、何じゃろうか？」など、遠足気分の声が聞こえ、楽しそうにしていました。が、邑久光明園が近づき、長島大橋を渡る時には、「短い橋だけれども、その橋が架かるまでの年月の長さ」について調べたことを思い出し、生徒たちには、言葉にならない思いがこみ上げてきたようでした。

邑久光明園では、どの生徒も真剣に副園長先生の話や入居者さん達の

体験を聞いていました。生徒たちはその話を通して、ハンセン病について間違った情報が世間に広がり、それが差別や偏見につながったことや、その差別や偏見のために患者さんたちが言葉では言い表せない、長くつらい日々を送ったことを改めて知りました。

病気について正しく理解して真実を知り、正しく伝えることが差別や偏見をなくすことにつながるということを、生徒たちは再確認したように思います。

さて、学校での集団生活の中では、それぞれの意見がぶつかり合い、時にはケンカになることもあります。お互いの存在や意見の違い・個性を認め合い、いじめや差別のない社会の実現を目指して取り組んでいます。そのためには、我々大人の言動によって、子どもたちに差別や偏見を抱かせることがあってはいけません。日頃、何気なく子どもたちに投げかけている言葉について、ここで一度、見直してみることが大切ではないかと思っています。

鏡野町生徒指導推進連絡協議会

富中学校 溝口 憲之

のびのびひろば

(芳野保育園)

カルタとり



みんなで楽しむお正月遊び!!

新しい年“うし”年を迎え、夢いっぱい子ども達。休み中に家族と楽しんだカルタやこま回しなどの正月遊びを保育園でも友達と一緒に遊んでいます。1月7日の“七草”の日には、前日摘んできた七草を給食に使ってもらい、ご馳走を食べて疲れ気味だった胃腸を休めました。

2月3日の“節分”の日には、泣き虫鬼やいじわる鬼などを追い払い、一年中元気で、友達とも仲良く過ごせるようにとの願いをこめて豆まきをします。



たこあげ



こままわし

まわれ! まわれ!

毎朝のマラソンも寒さに負けずに頑張っているよ!



マラソン

今年モオ〜
どうぞ
よろしく!!



1 ななくさ なすな

七草が芽をひくるときの歌です
竹葉をまきながら、もう一方の手
で歌をうたい、足元を踏みしめながら
うたいます。



あまんきみこ/文
岩崎ひろ/絵

節分の夜のことで。どのうちからも豆をまく音がして、鬼の子おにには、行くところがありません。つを隔す古い麦わら帽子をかぶって、まちを歩いてきました。ようやく橋を渡ったところに、豆のにおいのしない家を見つけました。そこには、おんなのことお母さんが住んでいました。お母さんは病気でした。天井のはりの上で、二人の様子を見ていたおにには、女の子を喜ばせてやりたいと思います。